

令和元年度

事業報告書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

学校法人 大阪学園

令和元年度 事業報告書

I. 法人の概要

1) 教育方針・校是・教育目標・学校像

◇ 教育方針

本校の教育方針は、至誠・和協・感謝を信条とし 責任を重んじ
自主的精神に充ちた 心身ともに 健全で 有能な人材の育成を方針とする

◇校是

至誠通天 (至誠、天に通ず：誠実に努力すれば、天も味方をしてくれる)

◇教育目標

- ・「知育」「徳育」「体育」の調和の取れた全人教育の追及
- ・未来へ、世界へ開く自己の確立

◇学校像

ユニークな進学校として、北摂の地に根をしっかりとほり、太い幹となる

- ・学びを中心として丁寧に面倒を見てくれる学校
- ・生徒全体を分け隔てなく伸ばそうとしてくれる学校
- ・あったかい学校

◇教育姿勢

創意工夫

2) 設置する学校・学部・学科等

①学校法人 大阪学園 大阪高等学校

②全日制普通科 文理特進コース
総合進学コース
探究コース

3) 入学定員、生徒数の状況

①学則定員 1,800名 募集定員 1,200名 (400名×3学年)

②入学定員 募集生徒数(定員) 400名

平成31年度入学 631名

定員充足 プラス231名

③生徒数の現状 令和元年度

1学年 631名

2学年 485名

3学年 571名

1,687名

4) 学園役員並びに教職員の概要

①学園役員	理事は理事長以下	5名
	監事	2名
	評議員	理事5名+9名=14名
②教職員	専任教諭（校長除く）	50名
	常勤講師	28名
	非常勤講師	34名
	嘱託職員（教員）	5名
	職員（会計・庶務）	5名
	事務補助員（庶務）	1名
	実習補助員（家庭科2・理科1）	3名
	技術職員（校務員）	1名
	技術補助員（校務員）	2名
	合計	129名

II. 事業概要

1) 教学面

◇学校づくりの目標

- ①学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望進路の実現を図る学校
- ②生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
- ③広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校

◇重点目標

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る
- ②進路観を掘り起こし、実現を図る
- ③課外活動の充実を図る
- ④社会性と共に基本的生活習慣の確立を図る

◇目標と結果

《COVID-19》

今年度末COVID-19の影響下、2月末から実施予定であった修学旅行を延期し、第一学年の学年末試験最終日であった3月3日より休校に入った。その後、進級にかかわる生徒においては、必要最小限の登校で追認試験やレポート提出を課すこととなった。

本校においては、終業式にて次年度の活動が始まるので、学年を分けるだけでなく、日時を変えることで3日間6回の終業式を行った。

1. 入学者数

令和2年3月末までに679名が入学手続きを済ませ、大阪府下有数の受験者数が続いている。理由として一番に挙げられるのは、本校オープンスクールの評価の高さである。中学生や保護者の感想として、在校生の表情の明るさ、対応の前向きさが挙げられている。

オープンスクールに対して自ら関わりたいという在校生が前年増加している。因みに今年度は全学年で有志が89名も集り、生徒自身が自分たちの日常、大阪高校とは何かを悩み、考え、工夫をしていた。

2. 安心安全をベースにした学校

全学年における退学者数は以前10名近い年が続いていたが、今年度は昨年度と同様3名であった。また、30名前後を推移していた転学者数が今年度は半減と大きく減少した。

学校全体の落ち着きは処分件数にも現れるが、4年前から処分件数は半減、年間15件前後を推移している。日常の生活は落ち着いており、前向きな生徒が増加していると判断している。

3. 授業力を伸ばす

ここ数年中心に置いた学校主催の研究授業を実施せず、各科の主体性に委ねた。結果、全ての教科で自主的に研究授業や年間を通じての授業見学が行われていた。

例えば、複数の教科で年齢別に構成し、3人のグループで行う授業見学が行われた。授業を通して、新人、中堅、ベテランが対話を行う姿が印象深い。

次年度以降も、教科の主体性を最大限に尊重する取り組みを優先させたい。

4. 自己実現につながる進路

進路決定率は93.1%、国公立8名（24年連続合格）、関関同立17名、MARCH2名、京女・同女5名合格。中堅私大は248名の合格者であった。

特質すべきは海外大学挑戦である。具体的には台湾師範大学やマレーシアのTaylor's Universityなど11名が進学した。次年度9月入学に向けて8名が受験を考えている。

本校の進路指導の基本軸は「自分の興味関心をより追求できる場所を探す」であり、進路指導部や担任と共に面談を充実させている。

3. 財務の概要

学校法人会計

国又は地方公共団体より補助金の交付を受ける学校法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

この従うべき基準が、「学校法人会計基準」であり、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守する統一的な会計基準として定められました。この基準に従い、本学園も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの財務書類を作成しています。

1) 資金収支計算書

① 収入の部

前年度繰越支払資金を除いた当年度の収入額は18億4,463万円となりました。

入学者数は121人増の631名、生徒数は88人増の1,687名となり、学生生徒等からの授業料や入学金等の学生生徒等納付金収入は6億5,905万円（前期比+3,068万円）、入学検定料等の手数料収入は4,167万円（前期比+111万円）となりました。

補助金収入は10億3,240万円（前期比+9,910万円）で、大阪府経常費補助金収入4億6,951万円（前期比+2,067万円）、授業料支援補助金収入4億5,124万円（前期比+4,864万円）が交付されました。施設・設備の国庫補助金収入が1億524万円、（前期比+2,841万円）、耐震化の大阪府補助金収入が394万円（前期比+198万円）交付されました。

雑収入では退職金財団交付金収入が521万円ありました。

② 支出の部

翌年度繰越支払資金を除いた当年度の支出額は22億3,745万円となりました。

人件費支出は8億3,616万円（前期比△1億1,199万円）となりました。

教育研究費支出及び管理経費支出は3億8,433万円（前期比+304万円）となりました。

施設関係支出は13億9,483万円、設備関係支出は3,674万円で体育館改築工事を行ないました。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は5億4,934万円（前期比△3億9,281万円）となりました。

2) 事業活動収支計算書

事業活動収入計は17億4,581万円、事業活動支出計は13億5,337万円となりました。

① 教育活動収支

収入は学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金等で16億3,457万円（前期比+5,176万円）となりました。支出は人件費、教育研究経費、管理経費等で13億2,756万円（前期比△1億235万円）となりました。

なお、教育研究経費および管理経費に含まれる減価償却費は1億207万円となりました。

② 教育活動外収支

借入金の約定返済により借入金利息が減少（△67万円）し、**教育活動外収支差額は△100万円**となりました。

② 特別収支

臨時的な収支を表す特別収支には体育館建替え工事の補助金、建替え工事他で資産処分差額があり、退職給与引当金特別繰入額と合わせて**特別収支差額は8,643万円**（前期比+2,290万円）となりました。

④ 当年度収支差額

「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」の合計、**基本金組入前当年度収支差額は3億9,243万円**（前期比+1億7,771万円）となりました。**基本金組入額合計は13億1,554万円**（前期比+7億9,340万円）、当年度収支差額は△9億2,311万円（前期比△6億1,568

万円）となり、前年度繰越収支差額と基本金取崩額を合わせた**翌年度繰越収支差額は△15億2,000万円**となりました。

以 上